

## 24 章 総合問題 24

### 問題

【1】

### 解答

1 d    2 a    3 e    4 c

### 解説

#### 【ポイント】

段落〔文〕補充問題は、段落ごとのポイントを押さえ、指示語などを手がかりとしてきばきと答える練習をしておきたい。

第1段落では、アメリカの前上院議員ゲイロード・ネルソン氏の言葉として、全体のテーマが述べられている。すなわち、「環境保全の倫理観を吹き込ませた世代を育てるまでは、環境の面で本当に〔真に〕進歩したことにはならない」というものである。空所1は、こうして挙げられたテーマに続く内容であること、また、第3段落で述べられている、アメリカの戸外学級での環境教育に続く内容であることがヒントとなる。こういったヒントから、選択肢を検討していくと、「人類と環境との関係や影響を子供たちに気づかせるだけでなく、環境問題への取り組みに参加する方法も子供たちに教えるのが学校の義務である。」と第1段落に直接つながる内容で、かつ具体例である第3段落を導くことができる d が入るのがふさわしいと判断できる。

第3段落は上で見たようにアメリカでの戸外学級での環境教育の例である。空所2に続く第5段落は、日本の千葉の小学生のゴミ問題を通じた環境学習の例が述べられている。この流れをヒントとして選択肢を検討してみると、ドイツにおける環境保護に対する取り組みと、学校での子供を巻き込んだ活動について述べた a が入ると判断できる。また、a の第1文にある both these objectives とは空所1に入る d で述べられている学校の義務、つまり to make children aware of mankind's relationship to and effect on the environment と to show them ways to become involved in dealing with environmental problems を指すと考えられるので、a が空所2に入るのが適当である。

第5段落の内容は、先に述べたように、千葉の小学生のゴミ問題を通じた環境学習の例である。第7段落は、子供たちにとって最も気がかりなことの1つは環境破壊であり、それを訴えるために、演劇グループが環境問題を扱う短い劇を創作したことが述べられている。第5段落の最後から2番目の文で Parents were shocked … became involved in ～. と、親の環境問題への関与に触れているので、家庭が重要な役割を果たす例として、ピクニックからゴミを全部家へ持ち帰ることなどを挙げている e が空所3に当てはまると考えられる。

最終段落は全体のまとめであることを考えれば、空所4には、文章全体の内容を包括的にまとめたものが第1候補となる。こういった視点から選択肢を検討してみると、「人類の運命は子供にかかっている。だから子供に目を向けた方がよい。」と述べている c が当てはまると判断できる。

ちなみに、残った **b** の意味は以下の通りである。「経済政策と環境問題に密接な関係があることは、今では非常にはっきりしている。この根本的な問題の多くを解決するには、私たちの経済成長に対する評価を劇的に変える必要があるだろう。」

#### 全訳

20 年前、アースデイを設定するという考えがアメリカの前上院議員ゲイロード・ネルソン氏によって初めて提唱された。その時彼は「人の心、魂、骨の中まで環境保全の倫理観を吹き込ませた世代を育てるまでは、環境の面で本当に〔真に〕進歩したことにはならない。」と述べた。

**d** 人類と環境との関わりや人類が環境に与える影響について子供たちに気づかせるだけでなく、環境問題への取り組みに参加する方法を子供たちに教えるのも学校の義務である。

アメリカでは戸外学級がますます盛んになっている。自然環境の美しさがわかり、関心のある大人たちの指導の下で、子供が自然に直接触れれば、生態系を理解し、重んじるようになる。これらの戸外学級では信じられている。この計画では自然に生えている野の花を観察したり、岩の中の地質を学習したり、氷河を分析したり、小鳥に標識バンドを付けるのを手伝ったりする。

**a** 環境問題に取り組む牽引役であるドイツでは、再生紙で作られたノートだけを使い、プラスチック製のボールペンを使うのは避け、塗料を使っていない鉛筆だけを使用するように指導し、子供たちがこれらの2つの目的を達成するのを手助けする学校もある。これ〔このおかげ〕で子供たちはそのような指導の背後にある諸問題を議論し、非常に幼い時から日常生活で個人として効果的な行動をとることを習慣とするようになる。

日本では、千葉県で県が導入した計画の一部として小学生が環境保全について学んでいる。低学年の生徒は近場の植物や生物を観察し、高学年の生徒はゴミ問題、水質、気温の変化について学習する。ある研究課題では、生徒は学校から家へ帰る途中に空きカンやゴミを拾った。ゴミの1つ1つはその地域の地図上にピンで印をつけられた。親たちはそのピンの数の多さに驚き、その結果、地域のゴミの収集に携わるようになった。子供たちはゴミ処理に関してもっと多くの気づきを得ることに興味を持つようになった。

**e** 家庭は重要な役割を果たすことができる。電灯を消したり、ピクニックからゴミを全部家へ持ち帰ったり、ヒーター、エアコン、水を使いすぎないようにしたり、家で植物を育てたり、天然の素材でできたおもちゃを買ったり衣類を再利用したりして大人が模範を示すと、子供たちははじめからよい習慣を身につけることができる。

子供たちにとって最も気がかりなことの1つは環境破壊である。この驚くべき事実はアメリカで行われた最近の調査でわかった。このような恐れは創作的な仕事に変えることができる。1988 年、ロサンゼルスにおいて子供のグループが子供たちにとって重要な問題に取り組む「ピース・チャイルド・レパトリー・シアター」という劇団を立ち上げた。メンバーは皆、環境問題に大変関心を持っていたので、オゾン層の減少といった話題を扱い、地球に被害を及ぼす人々についての寸劇を含んだ短い劇「環境劇」を創作した。これはとても人気があり、何千という人々に環境に関するメッセージを伝えてきた。

**c** 「子供は大人が始めたことをしようとするものだ。人類の運命は子供にかかっている。だから子供に注意を払う〔目を向ける〕方がよい。」人間が環境にどれほど大きな影響を与

え得るか、子供たちの運命がこの地球の運命とどれほど結び付いているかを考える時、私たちはエイブラハム・リンカーンの言葉を思い出すべきだ。

**注**

選択肢 d

◇ It is the duty of schools

《形式主語》

to not only make children aware of

《真主語①》

mankind's { relationship to  
and  
effect on } the environment,

but also to show them ways to become involved in dealing with environmental problems.

《真主語②》

: 形式主語 it を使った文。真主語の2つが not only ~ but also … 「～だけでなく…も」に囲まれている。

本文

ℓ. 6 ◇ be appreciative of ~ 「～を認める」

ℓ. 9 ◇ glacier 「氷河」

◇ band ~ 「～ (= 鳥など) に (識別のための) バンドを付ける」

ℓ. 19 ◇ channel ~ 「～を (…に) 向ける [向かわせる; 導く]」

ℓ. 23 ◇ depletion 「減少; 枯渇」

**【2】**

**解答**

「全訳」下線部参照。

**全訳**

我々は常に、自然の美に対する関心は人間の内なる善良さの顕れであると思い込んでいる。これは我々が成す奇妙な思い込みで、なぜ一般に、我々は自然を美しいと見なすのかもわかっていない。

人間は左右対称であればより美しさを、乱雑であればより醜さを感じる傾向がある。自然は、少なくとも表面上は、乱雑であるように見える。自然の中に一人取り残されると、人間はそこで見つけたものを整頓し始める。何らかの均衡の原理を念頭に置いて取りかかることが極めて多い。いかなるものであれ、その一方の側に何かを置いたら、その反対の側にもそれと同じような何かを置かねばならないという観念に突き動かされる。そうしてそれを美しいと言うのである。

**注**

ℓ. 1 ◇ assume = take (something) as being true without proof 「想定する; 思い込む」

ℓ. 2 ◇ neither do we …

○ 前の strange が一種の「否定」を含意する。

- neither = not either
- ◇ generally speaking 「一般的に言って」
- ℓ. 4 ◇ apt = inclined; liable; likely; prone
  - cf. *aptitude* = natural talent (何かに向いた性質)
- ◇ symmetry 「(左右の) 対称」
- ◇ superficially 「①表面的に, ②《文修飾》表面的には」
- ℓ. 5 ◇ disorderly 「乱雑に」
  - ◇ Left alone with ～ 「一人～を相手に残されて」 分詞構文。
  - with は「仲間」のみならず「対戦相手」をも示す。ここでは後者。
  - cf. *leave A alone* = not touch or interfere with A
- ℓ. 6 ◇ proceed = to go to a further or next stage; go on
  - ◇ principle = fundamental law 「原理；原則」
  - ◇ equation < equate = regard ～ as equal 「～を同等と見なす」
  - cf. the *equator* (赤道)
  - ◇ He is driven …
    - drive = move; push 「～を駆り立てる」
- ℓ. 7 ◇ by the notion that …
  - notion = idea
  - that は the notion の内容を説明する同格の接続詞。that に導かれるものが if he puts … on the other side までであることに注意。

### 【3】

#### 解答

- (1) 嫉妬深い人は、他人を不幸にすることを望んで実行するだけでなく、嫉妬によって自分自身も不幸になるため。[50 字]
- (2) 「全訳」の下線部㉑参照。
- (3) 「全訳」の下線部㉒参照。
- (4) 当人が兄弟姉妹ほど両親から愛されていないと感じる場合と、親らしい愛情が欠けている両親を持った場合。[49 字]
- (5) comparison

#### 解説

- (1) 下線部㉑の意味は「通常の人間性のすべての特徴の中で、嫉妬は最も不幸なものである」となるが、その根拠は直後のセミコロ以下、not only ～, but he is also … by envy までで述べられている。
 

not only does the envious person wish to inflict misfortune  
and do so (= inflict misfortune) whenever he can with impunity,  
but he is also himself rendered unhappy by envy.

○この文は not only ～, but (also) … 「～だけでなく…も」の構文であるが、not only と否定語を先頭に出したために、その後の語順が倒置されて‘助動詞 (does)」

+ 主語 (the envious person) + 動詞の原形 (wish) ' の語順になっている。

○ inflict misfortune : inflict ~ (on [upon] ...) で「~ (= 傷・苦痛など) を (…に) 与える」の意。ここでは on [upon] … 以下はないが、文脈から「他人に不幸をもたらす；他人を不幸にする」という意味だと考えられる。

○ impunity は「刑罰を受けないこと」という意味で、with impunity は「とがめなく」になる。

○ but 以下は受動態で、能動態にすると、envy also renders him unhappy となる。能動態の文型は SVOC の第5文型で、render O C で「O を C にする」という意味である。よって but 以下は「彼自身もまた嫉妬によって不幸になる」という訳になる。まとめると、セミコロン以下の訳は「嫉妬深い人は、他人を不幸にすることを望み、罰せられないならばいつでもそうするだけでなく、本人もまた嫉妬によって不幸になる」となる。これを 50 字以内にまとめる。

なお、第1段落の第1文に続く Instead of deriving pleasure ~ . If he can ... . If this passion ... で始まる3文は、下線部①に続くセミコロン以下の部分を説明している。さらに Why should ~ で始まる3文は嫉妬が引き起こされる事例を述べている。

(2) 第1文

*Fortunately, however, there is <in human nature>  
a compensating passion, namely, that (= the passion) of admiration.*

A

B

○ Fortunately は「幸運にも」という意味の副詞だが、この場合のように、文の先頭に置かれた副詞は文全体を修飾する。

*cf. Undoubtedly, she is next to none in this field.*

(疑いなく、この分野で彼女の右に出る者はいない。)

○ namely : that is to say, that is などで置き換えることができ、「すなわち」という意味である。この文では A を B で説明している。

○ that は指示代名詞。ここでは文中の passion を指す。that を使って繰り返しを避けている。

第2文

*Whoever wishes to increase human happiness must wish { to increase admiration  
and  
to diminish envy.*

○ whoever ... は anyone who ... ということで「人間としてより幸せになりたいと願う人は誰でも…」という訳になる。

○ increase ~ (～を増加させる) の反意語として decrease ~ (～を減少させる) があるが、ここでは diminish ~ (～を減じる) を用いている。

(3) I doubt whether St. Simeon Stylites would have been wholly pleased

S V O

if he had learned of some other saint

{ who had stood *even longer* on an *even narrower* pillar }.

○ doubt whether …「…かどうかは疑わしい；…かどうか疑問に思う」：動詞 doubt で注意したいのは suspect との意味の違いである。両方とも「疑う」の訳語があてられているが、doubt は「あることの真実性を疑う」、suspect は「あることをそうではないかと思う」の意である。

cf. I doubt that she will get a job.

(彼女は職を得ることができないと思う。)

We suspected (that) he was the murderer even before we were told.

(我々は、そう聞かされる前から、彼が殺人犯ではないかと思っていた。)

○ St. Simeon Stylites 以下の文章の時制は仮定法過去完了になっていて、過去の事実と反対の仮定に基づく推量を表す。ここでは「もしも登塔者聖シメオンが…を知っていたならば」という筆者の想像に基づく推量になっている。

○ learn of ～「～について聞き知る」

○ even longer on an even narrower pillar : even は比較級を強調して「なお一層」の意味を表す。pillar は「柱」の意。脚注にあるように、聖シメオンは柱頭で 30 余年もの長い年月、修業をした苦行僧である。その聖シメオンが、他の聖人が、自分が修業した柱よりもっと狭い柱の上で、もっと長い間立っていたと聞き知ったとしたら、それを心から喜んだかどうかは疑わしい、ということ。

(4) 下線部を含む文の訳は「嫉妬心は子供の頃不幸によって大いに強まると私は思う」となる。子供の時に起こり得る不幸で、嫉妬を増大するものについて筆者が述べている部分は、第 2 段落の下線部④以降の部分である。2 つの不幸を述べる際の導入部となっているのは、ℓ. 21 ~ 22 The child who finds ~ the habit of envy の部分と ℓ. 26 ~ 27 Another misfortune in childhood ~ parental feeling. の文であり、この 2 つを 50 字以内で要約すればよい。

○ 1 つ目 : 

The child who	<u>finds a brother or sister</u>	<u>preferred</u>	〈before himself〉
V'	O'	C'	
S			

acquires the habit of envy

V O

○ 2 つ目 : Another misfortune in childhood which has the same result

S

is to have parents without much parental feeling.

V C

まとめると「当人が兄弟姉妹ほど両親から愛されていないと感じる場合と、親らしい愛情が欠けている両親を持った場合」のようになる。

(5) 本文全体を読み通すと、第 1 段落は「嫉妬とは何か、嫉妬はなぜ不幸な感情なのか」、第 2 段落は「嫉妬の解決策と幸福、子供の時の不幸と嫉妬」について述べている。第 3 段落では、まず「嫉妬の治療の大きな前進になる (ℓ. 36 take a long step) ことは、嫉妬の原因を理解することだ」と述べている。その後少し唐突な感じだが、ℓ. 37 The habit of thinking ~ fatal one. で「比較という悪しき習慣」について語り始める。

in terms of ～ は「～という見地〔方面〕から」という意味。fatal（致命的な）という語は 0.6 でも使われている（fatal to all excellence）が、comparison（比較）という思考習慣が人々の嫉妬を増大させるものであると筆者は考えていることがわかる。

#### 全訳

通常〔普通〕の人間性のすべての特徴の中で、嫉妬は最も不幸なものである。嫉妬深い人間は他人を不幸にすることを望み、罰せられないならば、いつでもそうするだけでなく、本人もまた嫉妬によって不幸になる。その人は、自らが持っているものから喜びを引き出さずに、他の人々が持っているものから苦しみを引き出す。できることなら、他の人々から彼らの優れた点を奪い取る。そうすることは、その人にとって、自分自身が同じ優れた点を身につける場合と同じくらい望ましいことなのである。この激情が荒れ狂うに任せたなら、それはあらゆる卓越したものにおいて、そして、特に優れた技能を最も有益に使うことにおいても、致命的である。労働者は自分の職場まで歩いていかなくてはならないのに、医者は患者を診察しに行くのに車を使えるのは一体なぜなのか。他の人々が激しい暴風雨に直面せざるを得ない時、科学捜査官が暖かい部屋で過ごすことができるのは一体なぜなのか。世界的に極めて重要で、たぐいまれなる才能を持つ人が、単調な家事をしなくて済むのは一体なぜなのか。そのような質問に対して、嫉妬は何の答えも見出さない。⑥しかしながら、幸運なことに、人間性の中にはこれを補うような感情、すなわち賞賛の感情がある。人間としてより幸せになりたいと願う人は誰でも、賞賛の感情を増やし、嫉妬心を減らすことを願うはずである。

嫉妬に対してはどのような解決策があるのだろうか。聖人なら無私無欲という療法がある。しかし、聖人と言えども、他の聖人に対する嫉妬は決してあり得ないことではない。⑦もし登塔者聖シメオンが、彼の場合よりも、より狭い柱の上で、より長く立っていた聖人が他にいたことを知っていたとしたら、彼は心から喜んだらうか。けれども、聖人についてはひとまず考慮しないことにすると、通常の男女の場合、嫉妬に対するただ1つの療法は幸福以外にあり得ない。問題は、嫉妬それ自体が幸福に対する重大な障害であるということなのだ。私は、嫉妬心は、子供の頃の不幸によって大いに強まると思う。兄弟姉妹が自分より愛されているのを目の当たりにする子供は、嫉妬が習慣になってしまう。そして彼が世間に出ると、自分が犠牲となっている不正を探し、不正が実際に行われていようものなら、すぐにそれを感知し、実際に行われていないとしても、そう思い込む。このような人間は必ず不幸になり、友人たちに厄介者とみなされるようになる。友人たちは、彼の思い込みによる侮辱を、いつも避けるようにすることなどできないからである。誰も彼も自分を嫌っている〔誰も彼を好きではない〕と思い込むことから始まり、ついには自らの行動によって、彼は信念を現実にする。同じような結果をもたらす子供の頃のもう1つの不幸は、親らしい感情が大きく欠落した両親を持つことである。自分より過度に愛されている兄弟姉妹がいなくても、他の家庭の子供たちが、自分よりも母親や父親から愛されていると感じ取るかもしれない。こうなると彼は他の子供たちや自分の両親を憎むようになり、成長した暁には、自分自身がイシュマエルのように社会に受け入れられていないと思うだろう。ある種の幸福は、すべての人にとって生まれながらにして持っている権利であり、そしてそれらを奪われることによって、ほぼ間違いなくその人は偏屈になり、敵意を抱くようになるだろう。

しかし嫉妬深い人間は次のように言うかもしれない。「嫉妬の解決法が幸福であると私に言ったところで、それが何の役に立つと言うのだろう。私が嫉妬心を抱いている間は、私は幸福を見出すことはできない。だが君は、幸福を見出すまで嫉妬するのをやめることはできない、と言うのだから。」しかし実生活は決してこれほど論理的なものではない。自分自身の嫉妬心の原因を理解するだけでも、嫉妬を解決するための大いなる一歩を踏み出したことになる。比較という見地からものごとを考える習慣は致命的なものである。楽しいことが起こった時には、それが何であろうと心ゆくまで楽しむべきであり、それが誰か他の人に起こっているかもしれない、何か別のことほど楽しいことではないかもしれない、などと立ち止まって考えるべきではない。

**注**

ℓ. 3 ◇ Instead of deriving pleasure from what he has,

A

he derives pain from what others have.

B

○ A と B の箇所が対照を成している。本来は A のはずなのに、B だというのである。

○ derive ~ from ... 「…から～を引き出す」。

ℓ. 6 ◇ run riot 「騒ぎ回る；はびこる」

ℓ. 10 ◇ inclemency 「(天候の) 厳しさ；荒天；厳寒」

◇ the elements 「(風・雨・寒さなどの) 自然力；風雨；悪天候」

ℓ. 11 ◇ drudgery 「骨折り仕事；つまらない仕事」

ℓ. 18 ◇ leave ~ out of account 「～を無視する」 = take [make] no account of ~

ℓ. 25 ◇ slight 「軽視すること；なおざり」

ℓ. 32 ◇ warped 「(考え・判断が) おかしい；ゆがんだ」

◇ embittered 「つらい思いを抱いた；敵意をもった」

**【4】**

**解答**

(1) 「全訳」の下線部①参照。

(2) 「全訳」の下線部②参照。

(3) 「全訳」の下線部③参照。

(4) 現実に存在するものを否定するのは、差別につながるから。〔27 字〕

**全訳**

つい最近、私は書面で1通の質問状を受け取ったが、誰からのものであったかは今では正確には思い出せない。どこかの大学院生で、何かの論文に取り組んでいる者であった。質問はその研究生が文学の「不純な形式」と呼んでいるものに関するものであった——そしてそれは、確か、既存のジャンルにきちんと収まり切らないあらゆる形式の文学作品を含んでいた。①私がこの質問状を素早く、また大した注意も払わずに読み進めるうちに、私がそのような「不純な形式」を認めるかどうか、その種の作品を正統な文学だと思うかどうか、という質問に行き当たった。こんな質問をする者がいるとは、という素朴な驚きを一旦やり過

ぐすと、案の定、気が付くとミシシッピ州の農園で子供の頃から馴染みのある、ある動物の  
 ことを思い浮かべていた。そしてラバを認めるとか認めないとかいったことを思いつく者が  
 果たしてこれまでにいただろうかということに、思いを巡らせていた。即座に私は、答えは  
 「認める」だと確信した。そして「ラバ」という詩の第1行目を思い浮かべていた。「ここに  
 この血筋の悪い馬がいる…」⑤私がまた思い浮かべたのはある著名な米国人作家の作品の至  
 る所に現れるラバのイメージ、すなわちその小説家はその動物を常に貧しさに結び付け、そ  
 してそれを苦難に際しての辛抱強い知性と不屈さの象徴としているということであった。  
 ⑥何を思ったのか突然、私は、この不純な形式にまつわる問題に直面していると、自分は政  
 治に直面しているのだとわかった。

# 注

- ℓ. 1 ◇ questionnaire 「質問票；アンケート」
- ℓ. 2 ◇ graduate student 「大学院生」 cf. *undergraduate* (学部生)
  - ◇ thesis = long written essay submitted by a candidate for a higher university degree 「学位論文；博士論文」
  - ◇ concern = be about  
cf. *concerning* *adj.*
- ℓ. 3 ◇ which：先行詞は “impure forms” of literature
  - ◇ as I recall 「今思い出すと；確か」
- ℓ. 4 ◇ bound = limitation cf. *boundary* (境界)
- ℓ. 5 ◇ this document
  - ℓ. 1 の a questionnaire を受ける。したがって、「文書」は訳としては不適當。
- ℓ. 6 ◇ approve of (something) = regard (something) as good
- ℓ. 7 ◇ constitute = ① form; make up ② *to be considered to be something*  
cf. *constitution* (憲法)
  - ◇ legitimate = 「合法の；正統な」  
cf. *legal* = of law
  - ◇ get beyond ~ = advance farther than ~
  - ◇ simple surprise that anyone would ask ~  
「いかなる者がそのような1つの質問を問おうかという単純な驚き《直訳》」
- ℓ. 8 ◇ find *oneself* … *ing* 「気がつくと…している」
  - ◇ predictably enough 「まったく予想通りに；案の定」  
cf. *strangely enough*  
*oddly enough*
- ℓ. 9 ◇ whether it ever occurred to anyone to …
  - it = to approve or disapprove of ~
- ℓ. 10 ◇ mule = the offspring of a donkey and a horse 「ラバ」
  - ◇ know = feel certain; be sure
- ℓ. 11 ◇ this horse from a bad family 「劣った血筋のこの馬」
  - ラバがロバと馬の雑種であることの含意。

- ℓ. 12 ◇ as : 接続詞。as it appears ～ work が the mule を限定している。
- ℓ. 13 ◇ how he associates the beast … and makes …
- how ≡ that → 「～ということ；ということの次第」
  - associate A with B = connect A with B
  - the beast = the mule
  - ◇ the poor = ①「貧困」 ②「貧しい人々」
  - ※ and 以下に a symbol とあるので、②では意味が通らない。
  - ◇ make A of B = make A out of B 「A を B から作る」
  - A = a symbol of ～, B = it [= the mule]
  - cf. He *made a fool of* me. (彼は私を馬鹿にした。)
- ℓ. 14 ◇ stubbornness < stubborn = strong-willed
- cf. as *stubborn* as a mule (ラバのように頑固な)《成句》
- ◇ in the face of = confronted by
  - ◇ suddenly = unexpectedly
  - cf. *Suddenly*, he stopped the car. (何を思ったか、彼は車を止めた。)《文修飾》
  - He stopped the car *suddenly*. (彼は急ブレーキで車を止めた。)《語修飾》
  - suddenly は位置によって意味が変わる点に注意。
- ℓ. 15 ◇ this issue of ～
- issue = subject to be talked about 「論点」
  - of ～ 「～に関する」
  - ◇ in the presence of ～ = in front of ～

## 【5】

### 解答

Canyon Village	<u>G</u>
West Thumb	<u>O</u>
Yellowstone Lake	<u>N</u>
West Thumb Campground	<u>P</u>
Old Faithful	<u>I</u>
Grand Canyon	<u>E</u>
Hiking Trail	<u>T</u>
The Promontory	<u>U</u>

- (1) T    (2) F    (3) T    (4) T    (5) T  
 (6) F    (7) F    (8) F    (9) F    (10) T

**Script**

**CD 2 7 ~ 9**

M : Can I help you, ma'am?

W : Yes, do you have a restroom here? We've been driving for four hours straight and the kids are driving me crazy.

M : Certainly. To the left there and straight back. You must be tired. Can I get you a  
5 cup of coffee or something?

W : Thank you. Something cool would be nice. Do you have any iced tea?

M : Coming right up. [Pause] Here you go.

W : Thanks.

M : Is this your first time to the park?

10 W : I was here once when I was a kid. But everything looks different. I don't remember there being so many people.

M : Well, there're lots of people in the summer. But it still gets pretty lonely here in the winter. Where are you staying?

W : At the Canyon Village Campground. Is that far from here?

15 M : Not so far. Just keep going up the road to the northwest, and in less than a mile you'll come to a fork in the road at West Thumb. Turn right and take the road that goes up along the big lake. That's Yellowstone Lake, the largest in the park. When you get to the northern end of the lake, you'll come to another wide fork. Go left. Go northeast about fourteen miles and that will bring you right to Canyon Village. The  
20 campground is near the village. There's a big sign, so you won't miss it.

W : Are there any campgrounds closer to here?

M : The West Thumb Campground is right across the road from here, but I doubt you can get a place there. You need to reserve well ahead.

W : What about Old Faithful? Is that anywhere near our campsite? I must sound stupid,

25       but my son left the map at the restaurant where we stopped for breakfast.

M : Old Faithful is closer to here than it is to your campground. If you go north here but  
take the left fork at West Thumb and drive west, you'll find Old Faithful about  
fourteen miles up on the right.

W : When can you see the water shoot up?

30 M : The geyser spouts every hour on the hour. It's three-twenty now, so you could make  
it in time to see it at four o'clock.

W : I guess we'll do that. The kids will love it after being stuck in the car all day.

M : Are you going to be doing any hiking?

W : Yes, as soon as I get rested up a bit after all this driving.

35 M : Well, of course you'll want to explore the Grand Canyon. That runs along the east  
side of the road north of where your campsite will be. But if you have time, I can  
recommend a beautiful place. It's called the Promontory. It's the long narrow  
peninsula that sticks up from the southeastern end of the lake. There's great fishing  
there too.

40 W : How do we get there?

M : If you take this road south about a mile and a half, you'll find a hiking trail on your  
left. You'll have to park your car. It's not an easy trail. It crosses the continental  
divide, so be prepared for some hard walking. But what a view!

W : Sounds interesting, but we'd better research it a bit first. I don't know if I could  
45 handle it with three kids along.

M : Well, of course you ought to have an experienced guide. Anyway, give it some  
thought. I'm sure you'll love it.

W : Thanks a lot for everything. Here come the kids, so we'd better get moving.

M : You have a good safe trip.

50 W : Thank you. [606 words]

M：いらっしやいませ。

W：こちらにトイレはありますか。4時間ずっと車に乗っていて、子供たちがもう大変で。

M：ええ。そこを左に行った奥です。お疲れでしょうね。コーヒーか何かお持ちしましょうか。

W：ありがとう。何か冷たいものの方がいいですね。アイ스티ーはありますか。

M：すぐにお持ちします。〔しばらくして〕どうぞ。

W：どうもありがとう。

M：こちらの公園は初めてですか。

W：私は子供の頃に1度来ました。でも、何もかも違って見えますね。以前はこんなに大勢人がいなかったように思うんですが。

M：夏にはたくさんの人が来ますよ。それでも冬にはかなりひっそりとしますね。どちらにお泊まりですか。

W：キャニオン・ビレッジキャンプ場です。ここから遠いですか。

M：そんなに遠くはないです。その道をずっと北西に行くと、1マイルも行かないうちにウエスト・サムに分かれ道があります。そこを右に曲がって、大きな湖沿いの道を行って下さい。その湖がイエローストーン湖で、公園内で最大の湖です。湖の北端まで行くと、また大きな分かれ道があります。そこを左に行って下さい。北東に14マイルほど行くと、キャニオン・ビレッジに着きます。キャンプ場はその村の近くです。大きな看板がありますから、すぐにわかりますよ。

W：ここからもっと近い所にキャンプ場はありますか。

M：ウエスト・サムキャンプ場が通りのすぐ反対側にありますが、(空いている)場所がないんじゃないかと思います。かなり前に予約しないといけないんですよ。

W：オールド・フェイスフルはどうですか。私たちが行く予定のキャンプ場から近いですか。馬鹿な質問ををすると思われるでしょうが、息子が朝食に寄ったレストランに地図を忘れてきてしまったもので。

M：オールド・フェイスフルは皆さんがいらっしやるキャンプ場からよりもここからの方が近いですよ。そこを北に行って、ウエスト・サムの分かれ道を左に曲がって、西へ14マイルほど行くと、右側にあります。

W：水が吹き上がるのはいつ見られますか。

M：間欠泉は1時間に1度、毎正時に吹き出します。今3時20分ですから、4時に吹き出すのを見るのに間に合いますよ。

W：じゃあ、そうするわ。子供たちも1日中車に閉じ込められていたから、きっと喜ぶわ。

M：ハイキングには行かれるんですか。

W：ええ、ずっと車に乗りっぱなしだったから、ちょっと休んでからね。

M：もちろんグランド・キャニオンにも行かれるんでしょうね。皆さんのキャンプ場の北側の道の東側に広がっています。でも、もし時間がおありでしたら、素晴らしい場所をお教えます。プロモントリーという場所ですが、湖の南東の端に突き出している細長い半島なんです。魚釣りにも格好の場所ですよ。

W：そこへはどうやって行くんですか。

M：この道を南に1マイル半ほど行くと、左手にハイキングコースが見えます。車は停めて行かなければなりません。結構きつい道です。大陸分水嶺を横切っている道ですから、かなり道が悪いのを覚悟した方がいいですね。でも、景色は素晴らしいですよ！

W：楽しそうですけど、ちょっと調べてからにした方がよさそうですね。子供を3人連れて行けるかどうかかわからないですから。

M：もちろん、ベテランのガイドをつけた方がいいですよ。とにかく、ちょっと考えてみて下さい。きっとお気に召すと思います。

W：いろいろとどうもありがとう。子供たちが戻ってきたから、そろそろ行かなくちゃ。

M：楽しいご旅行を。

W：どうもありがとう。

**注**

ℓ. 2 ◇ restroom 「トイレ」

◇ straight 「ぶっ通しで」

ℓ. 3 ◇ drive ~ crazy 「~をイライラさせる [おかしくさせる]」

ℓ. 4 ◇ To the left there and straight back 「そこを左手にまっすぐ行ったところ」

ℓ. 6 ◇ ~ would be nice 「~ (の方) がいい」

ℓ. 7 ◇ Coming right up 「ただ今；すぐに (お持ちします)」

ℓ. 10 ◇ I don't remember there being so many people. = I don't remember there were so many people.

ℓ. 12 ◇ it still gets pretty lonely 「それでも (= 夏は混んでいるが冬は) かなり人気がなくなる」

ℓ. 16 ◇ fork 「分かれ道」

ℓ. 19 ◇ that will bring you right to ~ 「そうすれば~に着きます」

ℓ. 20 ◇ you won't miss it 「それはすぐにわかります (= you can't miss it)」

ℓ. 21 ◇ close to ~ 「~に近い」

ℓ. 22 ◇ right across the road from ~ 「道路を挟んで~のすぐ反対側に」

◇ I doubt (that) ... 「(おそらく) ...ではないと思う」

ℓ. 23 ◇ well ahead 「かなり前に」

ℓ. 24 ◇ I must sound stupid, but ... 「馬鹿なことを言っていると思うだろうが、...」

ℓ. 29 ◇ shoot up 「吹き上がる (= spout)」

ℓ. 30 ◇ geyser 「間欠泉」

◇ on the hour 「正時 (分などの端数の付かない時刻) に」

◇ make it in time to ... 「...するのに間に合う」

ℓ. 32 ◇ after being stuck in the car all day 「一日中車の中にいた後で」

ℓ. 34 ◇ get rested up a bit 「少し休む」

ℓ. 35 ◇ explore ~ 「~を探検する；見て回る」

ℓ. 38 ◇ peninsula 「半島」

◇ stick up 「突き出る」

- ℓ. 41 ◇ hiking trail 「ハイキングコース」
- ℓ. 42 ◇ continental divide 「大陸分水嶺 (分水嶺: 降った雨水が山の背を挟んで川となって  
反対の方向に流れるその境界)」
- ℓ. 43 ◇ be prepared for some hard walking 「道が険しいのを覚悟しておく」  
◇ what a view! 「景色は素晴らしい」 (= what a nice view!)
- ℓ. 44 ◇ I don't know if I could handle it 「うまくできるかどうかかわからない」
- ℓ. 46 ◇ give it some thought 「そのことを少し考えてみる」
- ℓ. 48 ◇ we'd better get moving 「そろそろ出かけた方がいい」
- ℓ. 49 ◇ You have a good safe trip. 「楽しい安全なご旅行を。」

## 【6】

### 解答

- (1) **c**    (2) **e**    (3) **d**    (4) **b**    (5) **a**  
(6) **d**    (7) **c**    (8) **a**    (9) **c**    (10) **c**

### 解説

- (1) ℓ. 28～29 から、給水のために停車していることが読み取れる。**c** が正解。
- (2) ℓ. 2～3 の in the darkness, against the stars から、夜であることがわかる。よって、**e** が正解。
- (3) ℓ. 17～18 に「出発地点に戻ったが、ただし今は貨車の反対側にいる」と書かれている。この内容に当てはまるのは、**d** のみ。
- (4) ℓ. 8～9 に They walked quickly, never trying to run. とある。したがって、**b** が正解。
- (5) 「1 人の男」とは、Scott のことである。ℓ. 8 に、Scott led the way because he knew this part of the country well. とあるので、**a** が正解。
- (6) 「2 人が待った」という記述は、ℓ. 24 にある。その理由は、直前に As long as the man stood there, they could do nothing. と書かれている。では、there とはどこを指しているのか。ℓ. 22～23 の outside the sliding door of the van であり、また ℓ. 21 の across the line である。以上のことから、貨車の反対側に男が 1 人立っているから、2 人はしばらく待った、のである。よって、**d** が正解。
- (7) ℓ. 37～38 に、Quickly he unscrewed the bolts とある。この he が指し示しているのは、ℓ. 36 の Ben である。
- (8) 排気孔を開ける直前の動作は、ℓ. 37 の Inch by inch he (= Ben) crawled up the roof. である。したがって、**a** が正解。
- (9) ℓ. 45 に、He could not see very much. The van was dimly lit by a lantern hanging somewhere. 「あまりよく見えなかった。照明はどこかにつるされているランタン 1 つのみで、貨車内は薄暗かった。」と記されている。よって、**c** が正解。
- (10) ℓ. 48 以降に書かれている、Ben の動作がヒントになるであろう。特に、ℓ. 48 の Gently but firmly he pushed the vent further round to make the hole bigger. や、ℓ. 54 の Slowly he put his arm and gun down into the opening.、ℓ. 56～57 の He put his head and right shoulder down into the hole. He wriggled a bit to get

further in., さらには, 0.58 の He turned his head round to see where the guard was. から判断すると, c 以外には考えられない。

#### 全訳

スコットとベンは列車を降りて、機関車のほうへと歩いて行った。巨大な金属製の水タンクを固定するために作られた、大きな木造の枠があった。暗闇の中では、ベンにはそれが見えなかつた。星（空）を背景にした単なる大きな黒い塊でしかなかった。

2人がタンクに到着する前に、小道の入り口に辿り着いた。ビバリーの滝に通じる小道であった。スコットは、ぐると回り込んで、誰にも見つからずに列車の反対側に戻らなければならない、と考えた。

2人はタンクが見えなくなるまで、小道を歩き、それから向きを変えた。スコットが先頭を歩いた。なぜならば、この地方には詳しくあったからである。彼らは決して走ろうとはしなかったが、急いで歩いた。ここで足首をくじいたり、捻挫したりしたら、すべてが台無しになるであろう。

彼らは小山の裏側に回ると、再び進路を変えて線路を横切った。ベンはレールをまたぐ時、直線に沿って目をやった。遠くに、列車のランプの光が見えた。

いったんレールを横切ってしまうと、2人は低い<sup>かんぼく</sup>灌木の間を進まなければならなかった。スコットは、とげのある低木の区画を避けるためにわざわざ遠回りしなければならなかった。

「通り抜けようとしたら、ずたずたになってしまうぞ。」スコットは小声でささやいた。

この時までには、2人の目は星の明かりに慣れていたので、とてもよく見えた。ほどなく2人は出発地点に戻った。ただし今は貨車の反対側にいたが。2人とタンクの間に車両があった。

スコットは、音を立てないように、貨車の横まで走って行った。ベンはあとをついて行った。そして、スコットが腕をつかむと、身じろぎもせず立ち止まった。スコットは、貨車の下を指差した。ベンは片方の膝をついて、車輪の間から線路の向こう側を覗いた。

人の脚の形が見えた。貨車の引き戸の外に、誰かが立っていた。その男がどちらのほうを向いているのか、ベンにはわからなかった。

これはまずい。男がそこに立っている限り、何もできないからだ。2人は待った。男は動かなかった。

時間が過ぎていった。それ以上長く待っていることはできなかった。何ができるだろうか？ 警報を鳴らされなくて、何か自分たちにできることはあるだろうか？

ベンには、機関士と機関助手がお互いに声をかけ合っているのが聞こえた。まだ水が勢いよくテンダー〔炭水車〕に流れ込んでいるところだった。もうすぐ終わるだろう。

スコットがベンの肩を叩いた。男が動き始めた。一瞬、機関車の方を向いた。こうなると、状況はさらに悪化するだろう。男が戻ってくるのを待たなければならないからだ。それから、男は考えを変えたのか、客車のほうへと戻った。

ベンは立ち上がった。ぐずぐずしている時間はなかった。今は、1秒1秒が大切なのだ。のほせ上がる〔興奮する〕ことも不安になることもなかった。考えられることは、彼はこれらをうまくこなさなければならず、いかなる失敗も許されないということだけであった。

スコットは、ベンを貨車の屋根に押し上げた。ベンは音を立てないように、とても静かに動かねばならなかった。少しずつ彼は屋根によじ登った。すぐさま彼はボルトを外して、ポケットに入れた。6個のうちの5個は完全に外したが、6個目は緩めただけだった。

さあ今（がチャンス）だ！ いよいよだぞ！

スコットは排気孔を数インチ押し開けた。きしむかもしれないと思った。きしんだら、車両の中にいる見張りが隙間から銃弾を撃ってくるだろう。

片目で中を覗いてみた。顔に当たる金属は冷たく、貨車の中から匂いがした。枯れた藁と熱いオイル、それに粗布の温かい匂いがした。

あまりよく見えなかった。貨車内は、照明はどこかにつるされているランタン1つのみで、薄暗かった。見張りの姿は見えなかった。

ここまでは、問題なかった。

少しずつではあるがしっかりと、排気孔を押し回して、穴を大きくした。すると、小さい穴は新月のような形になった。排気孔全体を押し回して開けてしまえば、満月のようになるだろう。

ベンは左手で、徐々に押ししていった。排気孔は難なく回転した。これで十分すぎるほどであった。右手で銃を抜いた。銃はあくまでも脅しでしかない。銃を撃つ必要はない、とスコットが言っていた。

ゆっくりと隙間の中へと銃を持った腕を下ろしていった。穴の端の金属に銃をぶつけないように、十分に注意した。

まだあまりよく見えなかった。穴に頭と右肩を入れた。さらに深く入れるために、少し身体をくねらせた。

見張りの場所を確認するために、顔の向きを変えた。

すると彼の腕は、まるでトラバサミのように彼を取り囲む複数の手によって、掴まれた。彼は力一杯引っ張られた。

排気孔は、彼から離れたところでぶらぶら揺れて大きな丸い穴となった。彼は引っ張られて、バランスを崩した。銃を落とし、貨車の中に頭からまっさかさまに落ちてしまった。

#### 注

ℓ. 1 ◇ There was a big timber frame built to hold a huge metal water tank

○ built は a big timber frame の状態を表す。

cf. There is a *page missing*. (1 ページ欠けている。)

○ timber = wood that is prepared for use in building

○ frame = rigid structure of a piece of furniture, building, vehicle, etc. which makes its shape and forms a support for its parts

ℓ. 3 ◇ mass = a large amount of a substance that does not have a definite shape or form 「塊」

◇ against = with something in the background, as a contrast 「～を背景として；～を背に」

cf. The white sail stands out *against* the dark sea. (海の黒さに白帆が目立つ。)

ℓ. 4 ◇ trail = a rough path across open country or through a forest

- ◇ lead off = start at a place or go away from it
- leading off は the trail を修飾する形容詞句。
- ℓ. 5 ◇ circle round = move in a circle 「回る」
- ℓ. 7 ◇ turn = go in a new direction
- ℓ. 12 ◇ glow = light or heat ※ ここでは「光」。
- ℓ. 13 ◇ they had to push their way through low bushes
  - push *one's* way = do or say something in order to move or progress to a new place or position, especially in a forceful way
  - ◇ Scott had to go out of his way to get round a patch of thorny scrub.
  - go out of *one's* way 「わざわざ～する；回り道をする」
  - get round = escape
  - patch = a small area of something, especially one which is different from the area around it
  - thorny < thorn = a sharp-pointed tip on a stem or leaf 「とげ」
  - scrub U = small bushes and trees
- ℓ. 15 ◇ tear = pull something forcibly apart or away or to pieces
- ◇ whisper = speak in a low, soft voice or under the breath
- ℓ. 19 ◇ stock-still = not moving at all
- ℓ. 20 ◇ point = hold out *one's* finger toward something in order to make someone notice it
  - ◇ drop to *one's* knee(s) = quickly move to a position where your body is resting on your knee(s) 「ひざを落とす」
- ℓ. 22 ◇ sliding door = a door that slides across an opening rather than swinging away from it
- ℓ. 26 ◇ Was there anything they could do that would not raise the alarm?
  - 関係詞の二重限定：文構造に注意。
- ℓ. 28 ◇ fireman = a man who takes after the fire in a furnace, engine, etc. 「機関助手」
  - furnace = a closed fireplace in which a very hot fire may be made 「炉；かまど」
  - ◇ gush = burst or flow forth
- ℓ. 29 ◇ tender = part of the steam train used for carrying coal and water for the train 「炭水車 [テンダー]」
- ℓ. 30 ◇ for a moment = for a very short period of time
- ℓ. 33 ◇ count = be important or valuable
- ℓ. 34 ◇ All he could think about was that he must do this well and not make any mistakes.
  - = The only thing he could think about was ….
  - ここでの All (that) ～ は、‘制限’の意味で用いられている。
  - cf. All we can do is (to) stop and think.
  - (我々にできるのは、じっくりと考えることだけである。)
- ℓ. 36 ◇ heave = a strong pulling, pushing, or lifting movement
- ℓ. 37 ◇ inch by inch = very slowly or by a small amount at a time

- ◇ crawl = move forward very slowly
- ◇ unscrew = take the screws out of
- ℓ. 38 ◇ bolt = a crew with a flat top and no point, for fastening two pieces of metal together
  - ◇ altogether = completely
  - cf. That is not *altogether* bad. (まったく悪いというわけではない。)
  - 否定文で altogether を用いると、部分否定になる。
- ℓ. 40 ◇ This was it! cf. *This is it!* (さあ、いよいよだ!)
- ℓ. 41 ◇ a squeak that could bring a bullet flying through the opening from the guard inside
  - squeak = make a very short high noise or cry that is not loud 「きしむ」
  - bring + A + B 「A を B の状態に至らせる」
  - bullet = a small piece of metal that you fire from a gun
  - opening = a hole or space in something through which air, light, objects etc. can pass
  - guard = someone whose job is to guard people, places, or objects
- ℓ. 43 ◇ against = touching, hitting, or rubbing another surface
- ℓ. 44 ◇ sack = a large bag made of strong rough cloth, that you use for storing or carrying flour, coal, vegetables etc.
- ℓ. 45 ◇ lantern = a lamp that you can carry, consisting of a metal or glass container surrounding a flame or light
- ℓ. 47 ◇ So far — so good. 「ここまでは順調だ。」
  - ここでは、これから先に問題が起こりそうなことを暗示している。
- ℓ. 48 ◇ gently = in a gentle way
- ℓ. 49 ◇ If he pushed the vent all the way round it would make full moon.
  - all the way = completely
  - make = come to be ; become
- ℓ. 52 ◇ draw = pull or cause to move from one place to another
- ℓ. 54 ◇ He was very careful not to bang the gun on the metal edge of the hole.
  - not to bang は ‘目的’ を表す副詞的用法。
  - bang = hit violently
- ℓ. 57 ◇ wriggle = twist and turn your body or part of it with quick short movements
- ℓ. 59 ◇ His arm was grabbed by hands that closed on him like steel traps.
  - that : 先行詞は hands。
  - close on ~ 「~ (=物・人) を徐々に取り囲む；包む」
  - steel trap 「トラバサミ」 獣類を捕獲する用具。獣類の通り道に設置し、これを踏むと留めがねがはずれて足や頭部を挟むようになっている装置。
- ℓ. 60 ◇ jerk = a quick pull, push, lift, twist, or throw ※ここでは「ぐいと引くこと」
- ℓ. 61 ◇ swing = move quickly in a smooth curve
  - ◇ leaving a big round hole : ‘付帯状況’ を表す分詞構文。
  - leave = let something remain
- ℓ. 62 ◇ head-first = moving forward with the rest of your body following your head

## 添削課題

### 解答例

It has been asserted that electronic books will replace traditional printed books and magazines. This has not actually come to pass yet, since the traditional book has a well established position. But regardless of resistance, digital publishing grows ever more common.

### 解説

- The sentence that states the main idea of a composition most commonly appears at the end of the introduction.
  - All that needs to be done is to write a balanced, grammatical sentence or two conveying the contents below. A good summary
    - (1) shows understanding of the passage
    - (2) distinguishes main ideas and support
    - (3) is clear and concise
    - (4) is written in your own words, not expressions copied or directly translated from the passage
- Sophistication in sentence construction and vocabulary are desirable to the above points.
- If there are words in the passage that you cannot translate accurately, do not use them in your writing. It may be possible to understand what the author means even if you don't understand every word, but make sure to use words you confident about in your writing.
  - Indent the first line when you write a paragraph. A paragraph is not a list of sentences. It is a complete unit. A list is what is called an outline. It is only a skeleton of the basic contents of the final composition.